

Kansai Economic Insight Monthly

2020/7/22

Vol.87 June/July

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR研究統括兼数量分析センター長)、木下祐輔(APIR調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋微(APIR研究員)、野村亮輔(研究推進部員)、吉田茂一(研究推進部員)、車競飛(APIRインターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要 旨

- 景気は足下悪化・先行き大幅な悪化を見込む -

- ✓ 5月の生産は4カ月連続で減産が続いた結果、80.7(2015年=100)に低下した。1993年以降で最も低い値。業種別では生産用機械工業、汎用・業務用機械工業等が大幅減産となった。
- ✓ 6月の貿易収支は5カ月連続の黒字だが、輸出入ともに前年比減少。コロナ禍の影響もあり、輸出では欧米向けの建設用・鉱山用機械の減少が大きい。輸入では医薬品や在宅勤務の需要から事務用機器が増加した。
- ✓ 6月の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続で前月比改善。緊急事態宣言が全面解除されたことで、特に百貨店やコンビニ、家電量販店などで比較的堅調な回復がみられる。
- ✓ 4月の関西2府4県の現金給与総額は名目で9カ月連続の前年比減少。営業時間短縮や休業で所定外労働時間が大幅に減少したため。実質賃金は14カ月連続の同減少。所得環境は悪化が続く。
- ✓ 5月の大型小売店販売額は8カ月連続の前年比減少だが、減少幅は前月より縮小し、下げ止まった。スーパーは飲食料品の好調が続く、食堂・喫茶以外の品目に回復が見られた。百貨店は4月の状況から国内市場に改善がみられ減少幅が縮小した。
- ✓ 5月の新設住宅着工戸数は前月比+16.1%と大幅に増加し、2カ月ぶりのプラス。うち分譲マンションの寄与が大きい。
- ✓ 5月の有効求人倍率は5カ月連続で前月比悪化し、下落幅も拡大した。緊急事態宣言解除を受け、求職者は増加したが、サービス業を中心に求人数の減少が続いている。
- ✓ 5月の建設工事出来高は17カ月ぶりのマイナスとなった。一方、6月の公共工事請負金額は2カ月ぶりの増加となった。
- ✓ 6月の関空への外国人入国者数は577人と前月の過去最低値から幾分増加したものの、依然低水準が続いている。
- ✓ 中国4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.2%で、前期の大幅マイナス成長から10%ポイント改善した。政府の政策により生産は回復してきたが、依然消費と投資の改善は遅れている。

【関西経済のトレンド】

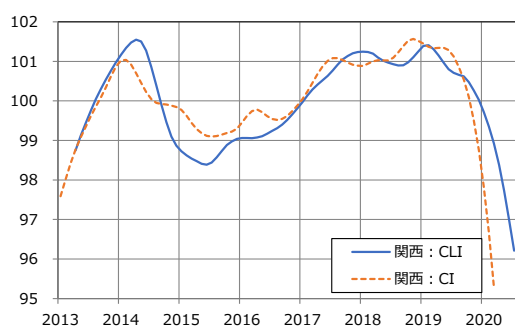
	2019年							2020年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生産	🔴	🔵	🔴	🔵	🔴	🔴	🔵	🔵	🔴	🔴	🔴	🔴	
貿易	🟡	🟡	🔴	🟡	🔵	🔵	🟡	🔵	🔵	🟡	🟡	🟡	🔴
センチメント	🟡	🔴	🔵	🔵	🔴	🟡	🟡	🟡	🔴	🔴	🔴	🔵	🔵
消費	🟡	🔴	🟡	🔵	🔴	🔴	🔴	🔴	🔴	🔴	🔴	🔴	
住宅	🟡	🔵	🔴	🔴	🟡	🔴	🔵	🔴	🟡	🟡	🔴	🔵	🟡
雇用	🔴	🔴	🔴	🟡	🔴	🔴	🔵	🔴	🔴	🔴	🔴	🔴	
公共工事	🔵	🟡	🔵	🔵	🔵	🔵	🟡	🔵	🔴	🔵	🔵	🔴	🔵
中国	🟡	🔴	🔴	🟡	🔴	🟡	🟡	🔴	🔴	🔴	🟡	🟡	🔵

（＊トレンドの判断基準）

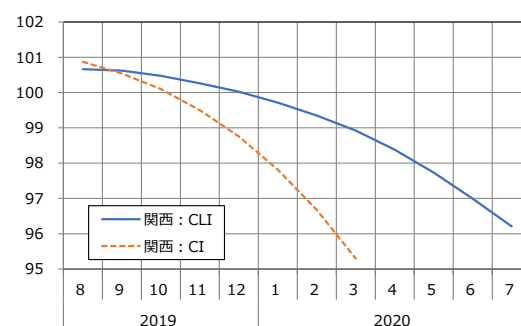
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域製造工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から 500 億円以上の改善は上向き、同 500 億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DI が前月比で 1 ポイント以上の改善は上向き、1 ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で 1%以上増加していれば上向き、同 1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で 0.01 ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01 ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI 一致指数・試作 CLI)の推移】

CI 一致指数・試作 CLI の推移(2013 年 1 月～20 年 7 月)



直近 1 年間の CI・CLI の推移(2019 年 8 月～20 年 7 月)



(注)指数は 2013 年 1 月～20 年 4 月までのデータで計算されており、新型コロナウイルスの影響を反映している。

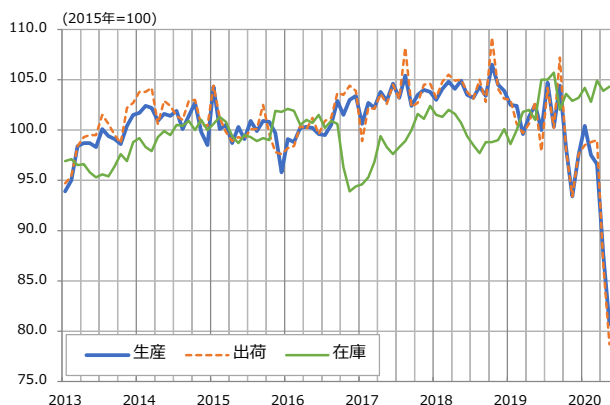
【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

関西 5 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年 =100)を見ると、生産は 80.7 で前月比-8.0%と 4 カ月連続で低下し、比較可能な 1993 年以降で最も低い値となった。結果、4-5 月平均(生産)は 1-3 月平均比-14.2%下落した(1-3 月期は前期比+1.9%)。出荷は 78.7 で前月比-9.2%と 2 カ月連続で低下した。在庫は 104.3 で同+0.4%と 2 カ月ぶりに上昇した。依然、足下の生産が弱いことから、近畿経済産業局は基調判断を「生産は急速に低下している」と前月から据え置いた。

5 月の生産指数はすべての業種で減産となったが、特に生産用機械工業(前月比-13.2%、3 カ月連続)、汎用・業務用機械工業(同-12.6%、2 カ月連続)、鉄鋼・非鉄金属工業(同-12.7%、3 カ月連続)が大幅な減産となった。なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、5 月(確報値)は 97.9 で前月比-8.2%と 2 カ月連続のマイナスであった。

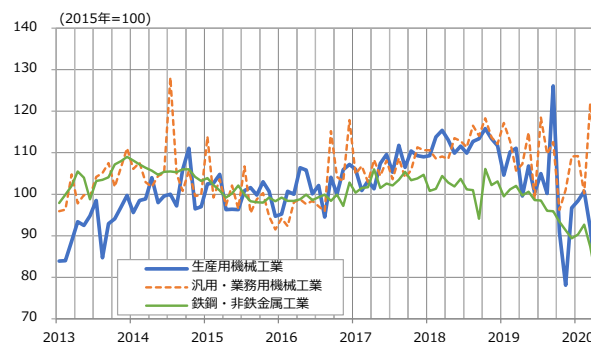
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~20 年 5 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~20 年 5 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

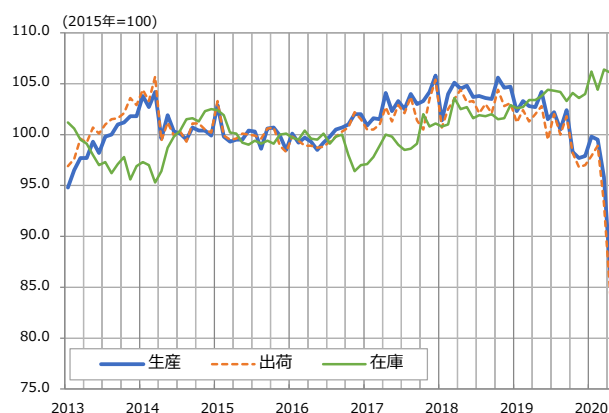
(2) 全国の生産動向

全国 5 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年 =100)を見ると生産は 78.7 で前月比-8.9%と 4 カ月連続で低下し、2009 年 3 月(79.0)以来の低水準となった。結果、4-5 月平均(生産)は 1-3 月平均比-16.1%下落した(1-3 月期は前期比+0.4%)。出荷は 76.8 で同-8.9%と 3 カ月連続、在庫は 103.3 で同-2.6%と 2 カ月連続で低下した。

5 月の生産指数はすべての業種で減産となったが、特に自動車工業(前月比-24.3%)、生産用機械工業(同-11.8%)、鉄鋼・非鉄金属工業(同-14.0%)が大きかった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、6 月は前月比+5.7%、7 月は同+9.2%といずれも増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013 年 1 月~20 年 5 月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

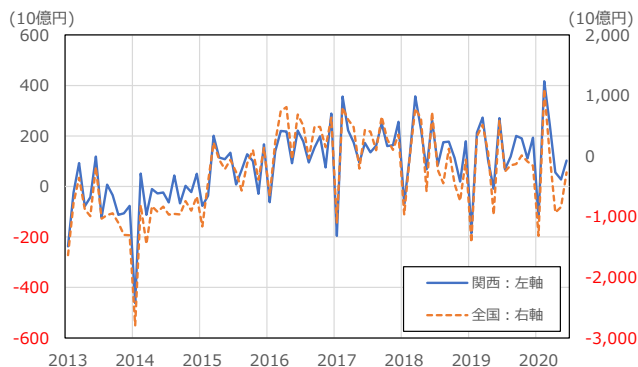
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 6 月の貿易収支は +1,029 億円と 5 カ月連続の黒字。輸出入ともに減少となった。輸出入の合計である貿易総額は前年同月比-8.8%と 9 カ月連続で減少し、昨年 9 月を除けば、2018 年 12 月から連続で縮小している。

全国 6 月の貿易収支は-2,688 億円と 3 カ月連続の赤字となり、輸出入ともに大幅減少となった。また、貿易総額は前年同月比-20.6%と 14 カ月連続で縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2013 年 1 月~20 年 6 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

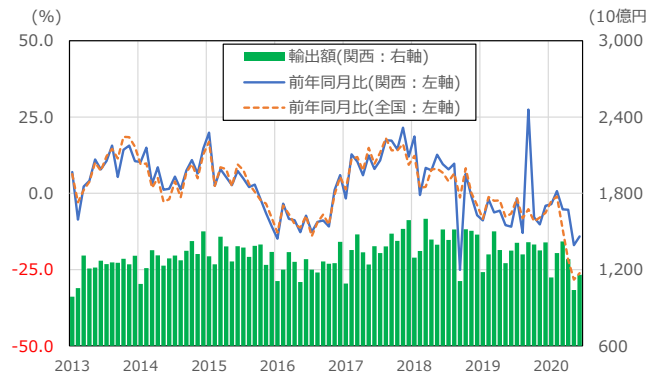
(2) 輸出

関西 6 月の輸出額(速報値)は 1 兆 1,595 億円で前年同月比-14.1%と 4 カ月連続の減少。財別にみれば、主に建設用・鉱山用機械、鉱物性燃料等が減少した。

日銀の実質輸出(季節調整値、2015 年平均=100)によると、6 月(速報値)は 98.8 で前月比+0.8%となり、3 カ月ぶりのプラスとなった。結果、4-6 月期の実質輸出は前期比-7.2%減少し、3 四半期連続のマイナス。

全国 6 月の輸出額(速報値)は 4 兆 8,620 億円で、前年同月比-26.2%と 19 カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、自動車の部分品、原動機等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2013 年 1 月~20 年 6 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

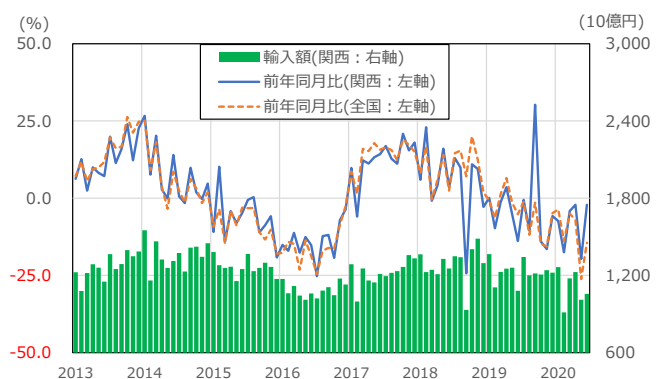
(3) 輸入

関西 6 月の輸入額(速報値)は 1 兆 566 億円で、前年同月比-2.2%減少し、9 カ月連続のマイナス。財別にみれば、主に原油及び粗油、石油製品等が減少した。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015 年平均=100)によると、6 月(速報値)は 100.9 で前月比-1.4%となり、2 カ月連続のマイナスとなった。結果、4-6 月期の実質輸入は前期比+7.7%増加し、3 四半期ぶりのプラス。

全国 6 月の輸入額(速報値)は 5 兆 1,309 億円で、前年同月比-14.4%と 14 カ月連続の減少であった。財別にみれば、原粗油、自動車、石炭等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2013 年 1 月~20 年 6 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西 6 月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,966 億円と 5 カ月連続の黒字となった。輸

出額(8,187 億円)は前年同月比-7.4%と 4 カ月連続のマイナスとなった。財別にみれば、鉄鋼、織物用糸及び繊維製品等が減少した。また、輸入額(6,221 億円)は同+4.2%と 2 カ月ぶりのプラスとなった。財別にみると、事務用機器、通信機等が増加した。

対中貿易収支は-105 億円と 4 カ月連続の赤字となった。収支は前年(+188 億円)から 293 億円縮小したため、赤字に転じた。輸出額(3,406 億円)は前年同月比+2.9%と 2 カ月ぶりのプラスとなった。財別にみると、主に非鉄金属、半導体等製造装置等が増加した。輸入額(3,512 億円)は同+12.5%で 3 カ月連続のプラス。財別にみると、事務用機器、織物用糸及び繊維製品が大幅増加した。テレワーク需要に伴うパソコン及び周辺機器やマスクの需要増が寄与した。

対米貿易収支は+293 億円の黒字となった。輸出額(1,390 億円)は前年同月比-24.9%と 4 カ月連続のマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、半導体等電子部品等が減少した。輸入額(1,097 億円)は同+7.9%と 4 カ月ぶりのプラス。財別にみれば、医薬品、事務用機器等が増加した。

対 EU(英国を除く 27 カ国ベース)貿易収支は-358 億円と 2 カ月連続の赤字。輸出額(1,012 億円)は前年同月比-24.2%と 9 カ月連続のマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、原動機等が減少した。輸入額(1,370 億円)は同-0.4%と 4 カ月連続のマイナス。財別にみれば、衣類及び同附属品、自動車等が減少した。

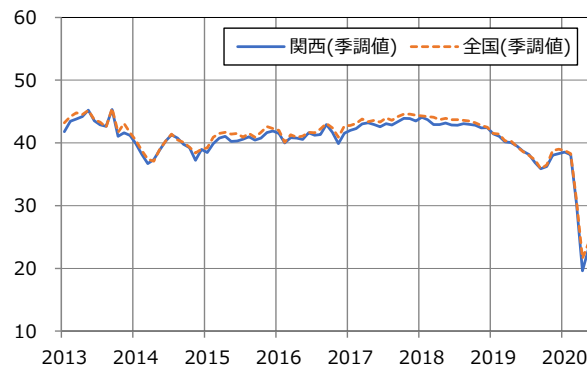
(5) 【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西 6 月の消費者態度指数(季節調整値:APIR 推計)は 28.3 で前月比+5.2 ポイント(前月:同+3.5 ポイント)と 2 カ月連続の上昇だが、リーマンショック後の 2009 年 1 月(27.4)以来の水準に留まっている。なお、京都府、大阪府、兵庫県では、前月 21 日に緊急事態宣言が全面解除された。

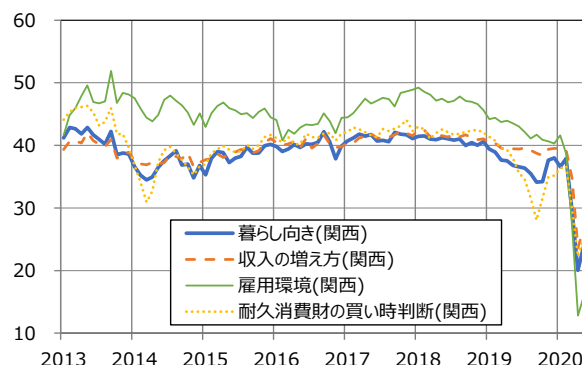
指数構成項目 4 指標すべてが前月より上昇した。暮らし向き指数(30.8)は前月比+6.8 ポイント、耐久消費財の買い時判断指数(30.8)は同+5.3 ポイント、雇用環境指数(20.8)は同+4.9 ポイント、収入の増え方指数(30.8)は同+3.9 ポイントといずれも 2 カ月連続で改善した。

消費者態度指数の推移(2013 年 1 月~20 年 6 月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」(下図も同様)

消費者態度指数構成項目の推移(2013 年 1 月~20 年 6 月)



全国(季節調整値)は 28.4 と前月比+4.4 ポイントと 2 カ月連続で上昇した。水準は依然低いものの、5 月 25 日の緊急事態宣言全面解除を受け、経済の持ち直しへの動きがみられる。同指数構成項目 4 指標すべてが前月より上昇した。暮らし向き指数(30.4)は前月比+5.4 ポイント、耐久消費財の買い時判断指数(30.8)は同+4.5 ポイント、雇用環境指数(20.9)は同+4.1 ポイント、収入の増え方指数(31.4)は同+3.6 ポイントと、いずれも 2 カ月連続で改善した。結果、内閣府は基調判断を前月の「依然として極めて厳しいものの、下げ止まりの動きがみられる」から「依然として厳しいものの、このところ持ち直しの動きがみられる」と 2 カ月連続で上方修正した。

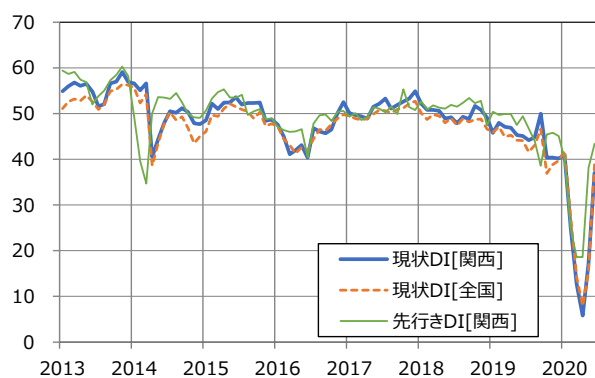
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 6 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は

37.0 と前月比+19.9 ポイントと 2 カ月連続で上昇し、上昇幅は比較可能な 2002 年以降で最大となった。全国の前月比は 38.8 と前月比+23.3 ポイントと 2 カ月連続で上昇した。5/25 に緊急事態宣言が全面解除となったことで、消費者の動きが戻りつつある。業種では、特に百貨店やコンビニ、家電量販店などで比較的堅調な回復がみられる。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西で 43.4 と前月比+5.2 ポイントと 2 カ月連続で上昇した。全国の前月比は 44.0 と同+7.5 ポイント上昇し、2 カ月連続で改善した。先行きは依然として新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念されているものの、百貨店等の小売関連業種では足下の客足回復を受け、改善が進むとの見方がある。また、観光業では「Go To Travel キャンペーン」の開始による期待感がみられる。

景気ウォッチャー調査の推移(2013 年 1 月～20 年 6 月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費】

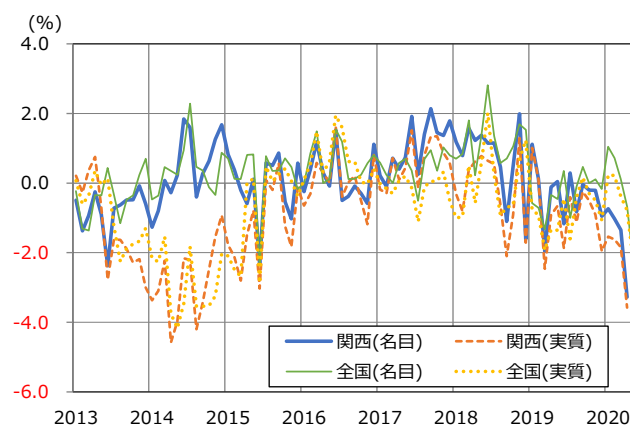
(1) 現金給与総額

関西 2 府 4 県の 4 月の現金給与総額(APIR 推計)は 26 万 6,546 円で前年同月比-3.3%となり、9 カ月連続の減少。府県別では、和歌山県は同-5.0%(3 カ月連続)、京都府は同-4.2%(5 カ月連続)、兵庫県は同-4.0%(4 カ月連続)、滋賀県は同-3.4%(4 カ月連続)、大阪府は同-3.0%(14 カ月連続)と、それぞれ減少した。一方、奈良県は同+2.4%(9 カ月連続)と増加した。京都・大阪・兵庫の加重平均をとった 4 月の「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は同-3.5%(前月: 同-1.3%)と、9 カ月連続で減少した。緊急事態宣言発令を受け

た営業時間短縮や休業の影響で労働時間(特に所定外労働時間)が大幅に減少したことが、賃金下落につながった。

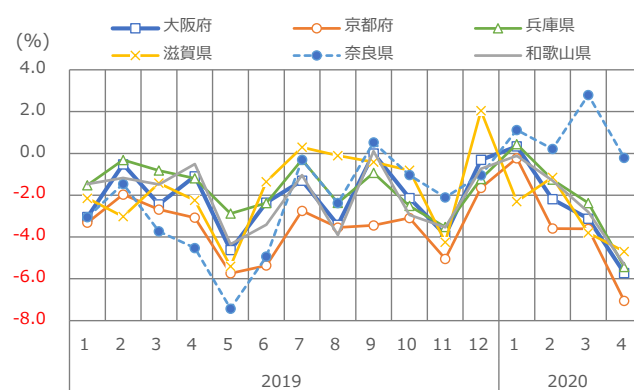
また、関西 2 府 4 県の現金給与総額から物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた 4 月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-3.8%(前月: 同-1.8%)と 14 カ月連続で減少し、所得環境の悪化が続いている。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2013 年 1 月～20 年 5 月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)は APIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011 年平均)で加重平均。
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成。

総実労働時間指数の推移(前年同月比: 2019 年 1 月～20 年 4 月)



(出所) 関西 2 府 4 県の自治体の公表資料より作成。

全国 5 月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比-2.3%と 2 カ月連続で減少した。内訳を見ると、所定内給与は横ばい。所定外給与は同-26.3%と 9 カ月連続で減少し、下落幅も 2013 年 1 月以降で最大だった前月(同-12.8%)から大幅に拡大した。特別に支払われた給与は同-10.7%と 5 カ月ぶりの減少。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を

除く総合)を除いた 5 月の実質現金給与総額(実質賃金)は同-2.3%と 3 カ月連続で減少した。

(2) 大型小売店販売額

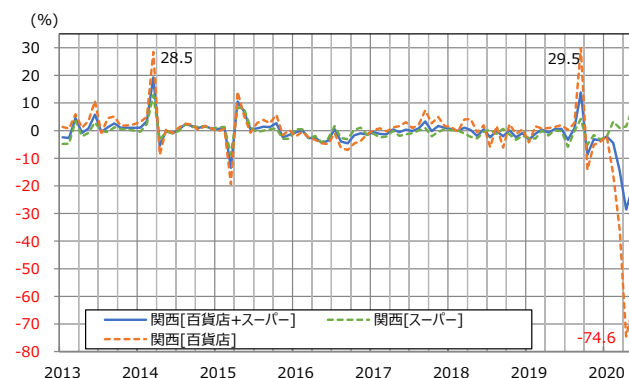
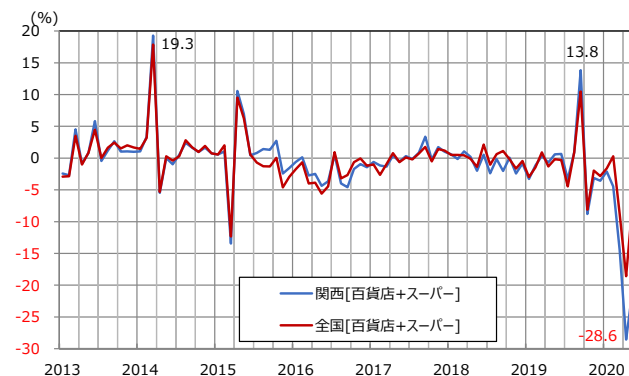
関西 5 月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は 2,416 億円で、前年同月比-23.1%と 8 カ月連続の減少となった。5 月中旬以降は緊急事態宣言の段階的解除を受けて、店舗の営業再開が進み、前月(同-28.6%)よりマイナス幅は縮小した。

うち、百貨店は前年同月比-64.3%と、8 カ月連続の減少。マイナス幅は前月(同-74.6%)から 10.3 ポイント縮小した。入国規制によってインバウンドの売上は依然として厳しい状況が続くが、国内市場の改善が見られたため、4 月の急減に比べると歯止めがかかった。なお、6 月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-92.1%と、件数は同-97.6%と、いずれも 5 カ月連続で大幅下落した。90%超のマイナス幅が 4 カ月連続で続いている。6 月下旬から入国規制緩和が実施されたが、インバウンド需要の回復には時間を要することから、百貨店免税売上高の低水準は続こう。

一方、スーパーは前年同月比+2.6%と 4 カ月連続のプラス。外出自粛に伴う家庭内での食品需要の高まりが続く中、飲料品(同+9.0%)の売り上げが好調に推移した。更に、他の品目は食堂・喫茶を除いて、マイナス幅が縮小し、回復が見られた。

全国 5 月の大型小売店販売額(全店ベース)は 1 兆 4,555 億円で、前年同月比-13.4%と 3 カ月連続の減少となった。うち、百貨店は同-64.1%と大幅な減少(8 カ月連続)となったが、スーパーは同+6.9%と 4 カ月連続の増加。なお、小売業販売額指数(季節調整済)の前月比の 3 カ月後方移動平均は-4.1%と 3 カ月連続の低下。前月(同-4.6%)より僅かに上昇し、経済産業省は小売業の基調判断を「下げ止まりがみられる」と前月から上方修正した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2013 年 1 月~20 年 5 月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

【住宅投資】

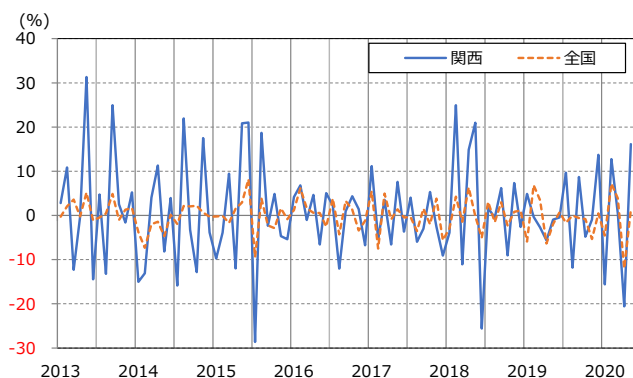
(1) 新設住宅着工の動向

関西 5 月の新設住宅着工戸数(原数値)は 10,131 戸となり、前年同月比-1.2%と 2 カ月連続のマイナスだが、減少幅は前月(同-15.7%)より縮小した。また、季節調整値(APIR 推計)は 10,927 戸で前月比+16.1%と 2 カ月ぶりの増加。利用関係別に見ると、持家は 2,362 戸で同-8.0%と 2 カ月連続で減少したが、貸家は 3,630 戸で同+5.4%と 2 カ月ぶり、分譲は 4,686 戸で同+35.5%と 3 カ月ぶりに増加した。うち、一戸建は 1,435 戸で同-10.7%と 2 カ月連続で減少したが、マンションは 3,387 戸で同+91.2%と 3 カ月ぶりに大幅に増加した。分譲マンションの増加は全体を押し上げた。

全国 5 月の新設住宅着工戸数(原数値)は 63,682 戸となり、前年同月比-12.3%と 11 カ月連続の減少となった。また、季節調整値では 67,267 戸となり、前月比+1.3%と 2 カ月ぶりの増加。利用関係別に見ると、持家は 20,179 戸(同-2.8%)

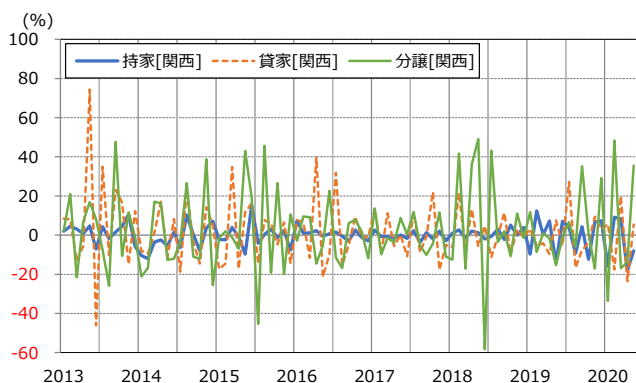
と、分譲は19,709戸(同-5.3%)といずれも2カ月連続で減少したが、貸家は27,035戸(同+11.7%)と2カ月ぶりに増加した。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値、前月比: 13年1月~20年5月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」(下図も同様)

利用関係別の推移(季節調整値、前月比: 2013年1月~2020年5月)



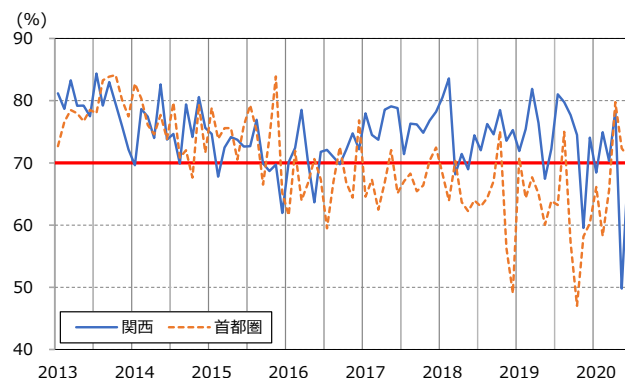
(2) マンション市場動向

関西6月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は69.4%(季節調整値: APIR 推計)と、前月比+19.6%ポイントと2カ月ぶりのプラス。前月から大幅に増加したが、好不況の境目である70%には届かなかった。契約率を府県別にみると(以下原数値)、大阪市部(76.1%)、神戸市部(73.7%)、兵庫県下(66.2%)など、多くの地域では前月の低水準からの回復が見られた。

マンションの新規発売戸数は1,407戸(前年同月比-6.2%)で、前月(214戸)から大幅に増加した。新型コロナウイルス感染症拡大によって絞られた供給に回復の兆しが見られた。

同月の首都圏のマンション契約率は70.9%(季節調整値: APIR 推計)で、前月比-1.4%ポイントと2カ月連続で低下したが、好不況の境目である70%を3カ月連続で上回った。新規発売戸数は1,543戸(前年同月比-31.7%)となり、前月(同-88.2%)の伸びからマイナス幅は縮小した。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2013年1月~2020年6月)



(出所) 株式会社不動産経済研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

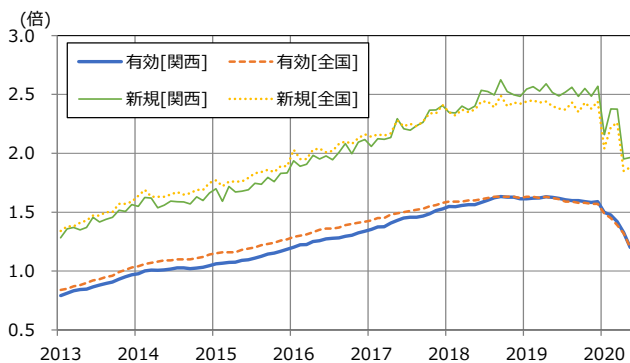
関西5月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.20倍で前月比-0.13ポイントと5カ月連続で悪化。下落幅は前月(前月: 同-0.09ポイント)から拡大しており、5月は第1次石油危機後の1974年10月(-0.13ポイント)以来の大きさ。リーマンショック時の下落幅(2009年1月: -0.07ポイント)を上回った。有効求人数は同-8.4%で5カ月連続の減少、有効求職者数は同+1.3%で4カ月ぶりの増加であった。サービス業を中心に求人数の減少が続いていることと、緊急事態宣言解除を受け、外出自粛者が求職活動を再開したことで求職者数が増加したことによる。

有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は1.33倍で同-0.15ポイント、京都府は1.24倍で同-0.12ポイント、奈良県は1.24倍で同-0.08ポイント、兵庫県は1.05倍で同-0.08ポイント、和歌山県は1.02倍で同-0.12ポイント、滋賀県は0.93倍で前月比-0.15ポイントと、いずれも5カ月連続で低下した。うち、下落幅が最も大きかった滋賀県では、2014年

11月(0.97)以来、1倍を下回った。企業の求人意欲の低下と、求職者数の増加により、有効求人倍率が1倍を割り込む府県が増える可能性もある。

また、関西5月の新規求人倍率は1.96倍で前月比+0.01ポイントと3カ月ぶりの小幅改善。新規求人数(同+8.6%、3カ月ぶり)、新規求職者数(同+8.0%、4カ月ぶり)ともに増加したが、新規求人倍率は小幅の改善にとどまった。

求人倍率(受理地別)の推移(2013年1月~20年5月)

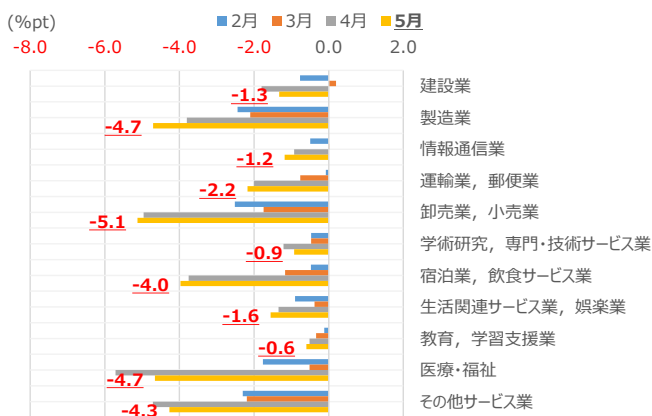


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県の有効求人倍率(2020年4月~5月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
4月	1.32	1.33	1.08	1.36	1.48	1.13	1.32	1.14
5月	1.20	1.20	0.93	1.24	1.33	1.05	1.24	1.02
前月差	▲0.12	▲0.13	▲0.15	▲0.12	▲0.15	▲0.08	▲0.08	▲0.12

関西における新規求人数の産業別寄与度(2020年2月~5月)



(出所)各労働局公表資料より APIR 作成

なお、5月の新規求人数は前年同月比-32.2%と5カ月連続の減少となっている。前年比の伸びの産業別寄与度をみると、卸・小売業(-5.1%ポイント)、製造業(-4.7%ポイント)、医療・福祉業(-4.7%ポイント)、その他サービス業(-4.3%ポイント)、

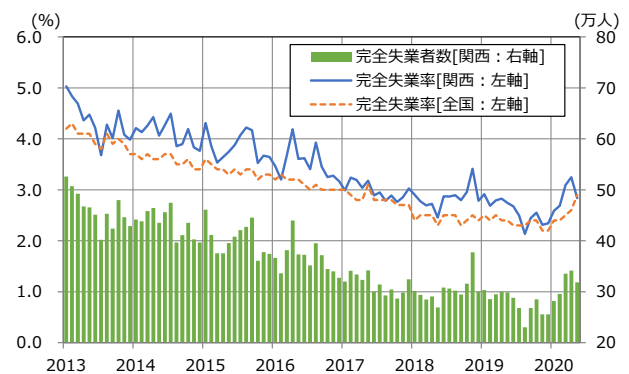
宿泊・飲食業(-4.0%ポイント)の順で減少幅が目立っており、雇用環境は悪化している。

全国5月の有効求人倍率(季節調整値)は1.20倍で前月比-0.12ポイント低下し5カ月連続の悪化。下落幅は1974年1月(同-0.20ポイント)以来の大きさ。一方、新規求人倍率は1.88倍で同+0.03ポイント上昇し、2カ月ぶりに改善した。

(2) 完全失業率の推移

関西5月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.8%と前月比-0.4%ポイント低下し、6カ月ぶりに改善した。完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は31.8万人で前月差-2.3万人とこちらも6カ月ぶりに減少。労働力人口(季節調整値:APIR推計)は前月差+16.7万人(前月:同-34.9万人)、就業者数(季節調整値:APIR推計)は同+17.3万人(前月:同-34.0万人)と増加した。5月は緊急事態宣言解除を受け、職探しが再開されたことで労働力人口が増加したことに加えて、就業者も増加したため、完全失業率は低下した。しかし、就業者数の中には調査期間中に給料・賃金の支払いを受けているが仕事をしていない休業者が含まれる。休業者が今後失業者として顕在化する可能性もあるため、今後の動向を注視する必要がある。

完全失業率の推移(2013年1月~20年5月)



(出所)総務省「労働力調査」

全国5月の完全失業率(季節調整値)は2.9%と前月比+0.3%ポイント上昇し、3カ月連続の悪化。2017年5月(3.1%)以来の高水準であった。完全失業者数(季節調整値)は197万人で前月差+19万人と5カ月連続で増加した。理

由別では、「非自発的な離職」(52 万人)は同+7 万人増加、「自発的な離職(自己都合)」(74 万人)は同+4 万人増加、「新たに求職」(52 万人)は同+2 万人増加した。

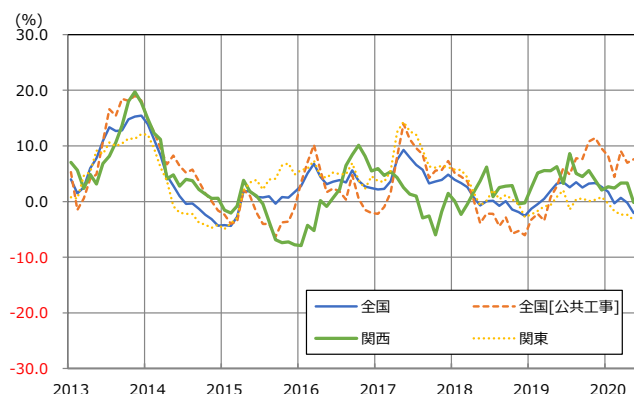
【建設工事・公共投資】

(1) 建設工事

関西 5 月の建設工事出来高は 4,930 億円で前年同月比-0.2%と 17 カ月ぶりのマイナスとなった。関東は 1 兆 3,633 億円で同-3.3%と 5 カ月連続で減少した。

全国 5 月の建設工事出来高は 3 兆 7,008 億円で、前年同月比-2.1%と 2 カ月連続の減少。うち、公共工事は 1 兆 3,881 億円で同+7.6%と 14 カ月連続の増加となったが、民間工事は 2 兆 3,127 億円で同-7.1%と、9 カ月連続の減少となった。

建設工事出来高の推移(前年同月比: 2013 年 1 月~20 年 5 月)



(注) 2020 年 4 月分より遡及改訂された値を反映している

(出所)国土交通省「建設総合統計」

(2) 公共工事請負金額

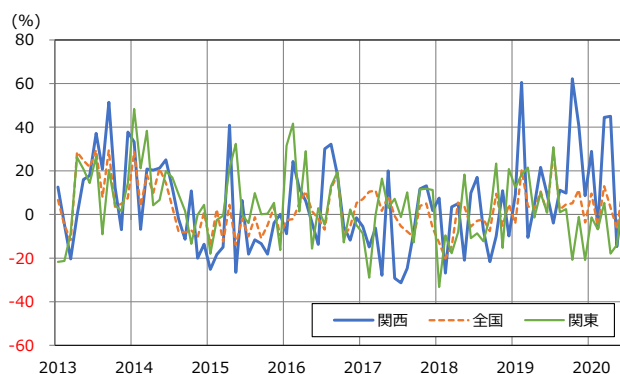
関西 6 月の公共工事請負金額は 1,604 億円で前年同月比+9.0%と、2 カ月ぶりの増加。季節調整値(APIR 推計)でみると前月比+28.7%と 2 カ月ぶりの増加となった。

結果、4-6 月期を見ると、関西の請負金額は 6,010 億円で、6 四半期連続で前年同期比増加となった。また、季節調整値(APIR 推計)でみると、前期比-5.6%と 2 四半期連続の減少となった。

関東は 4,292 億円で前年同月比+9.0%と 3 カ月ぶりの増加。全国は 1 兆 6,386 億円で同+13.2%と 2 カ月ぶりの増加となった。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は前月比+6.4%と 2 カ月連続の増加、全国は同+7.3%と 2 カ月ぶりの増加となった。

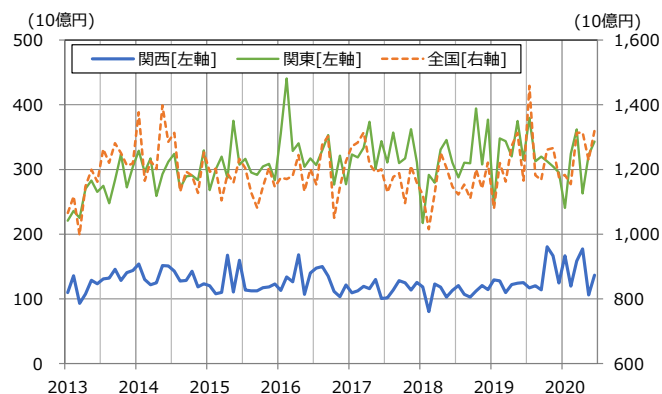
結果、4-6 月期の関東の請負金額は前年同期比-8.7%と 2 四半期ぶりの減少、季節調整値(APIR 推計)では前期比+0.2%と 2 四半期連続の増加となった。全国は、7 四半期連続で前年比増加(+3.4%)、季節調整値(APIR 推計)では 3 四半期ぶりの前期比増加(+5.8%)となった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2013 年 1 月~20 年 6 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2013 年 1 月~20 年 6 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【関空モニター】

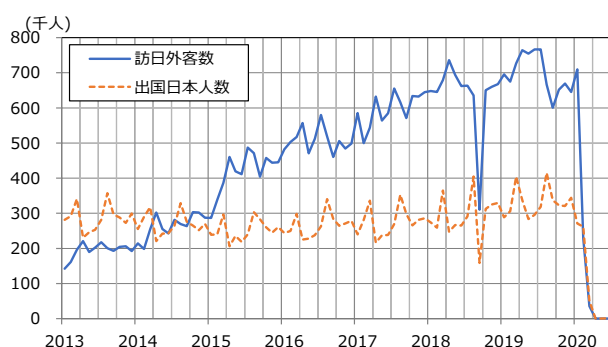
(1) 訪日外客数トレンド

6 月の関空への外国人入国者数は、577 人と前年同月比-99.9%減少した。前月の過去最低値から幾分増加したものの

依然、低水準が続いており、入国者はほとんどみられない。なお、6月中旬よりフィリピン航空やシンガポール航空の運航が一部再開されたが、依然厳しい政府の水際対策が続いているため訪日外客数は低調となろう。外国人出国者数は2,753人で同-99.6%と5カ月連続の減少。結果、外国人入出国者数は3,330人で同-99.8%と5カ月連続の減少となった。

日本人出国者数は801人で前年同月比-99.7%と6カ月連続で減少した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2013年1月～2020年6月)



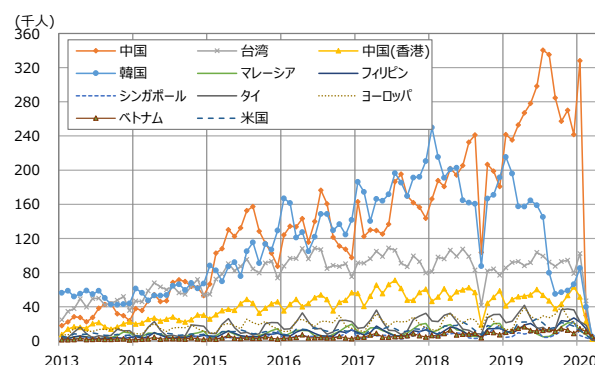
(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

4月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、全体の水準(393人)は低い。うち、韓国からの入国者が161人(前年同月比-99.9%)であった。次いで、中国が88人(同-100.0%)、台湾が59人(同-99.9%)、インドネシアが35人(同-99.6%)であった。なお、法務省が4月3日に上陸拒否対象を韓国や中国の全地域に拡大している。伸び率をみると、韓国は23カ月連続、中国は3カ月連続、台湾は3カ月連続、インドネシアは2カ月連続でいずれも減少した。

上記以外の各国をみれば、米国が25人(前年同月比-99.9%)、欧州が14人(同-100.0%)、香港が1人(同-100.0%)であった。なお、新型コロナウイルスの感染拡大前まで、比較的入国者数が多かったタイ、ベトナム、フィリピンからの入国者は0人であった。

地域別訪日外客数(2013年1月～2020年4月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

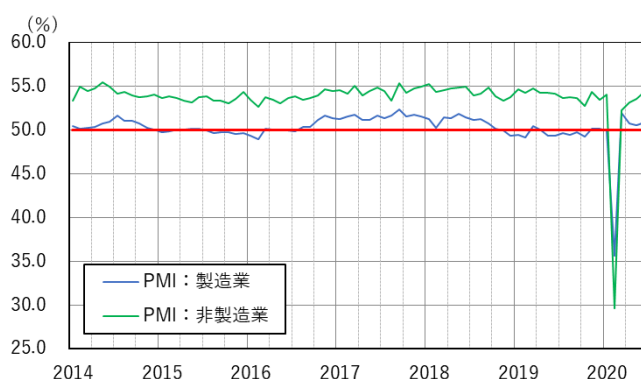
【中国景気モニター】

(1) センチメント

6月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.9となり、前月から+0.3%ポイント上昇し(3カ月ぶり)、4カ月連続で景気分岐点(50)を上回った。非製造業PMIは54.4となり、同+0.8%ポイント上昇し、4カ月連続の改善。

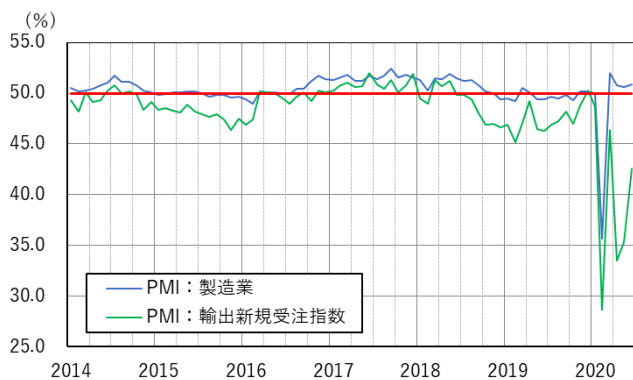
製造業PMIのうち、生産指数は53.9と前月から+0.7%ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は42.6と+7.3%ポイント上昇し、2カ月連続の改善となったが、6カ月連続で景気分岐点を下回った。雇用指数は49.1と-0.3%ポイント低下し、3カ月連続の悪化となった。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月～2020年6月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~20年6月)

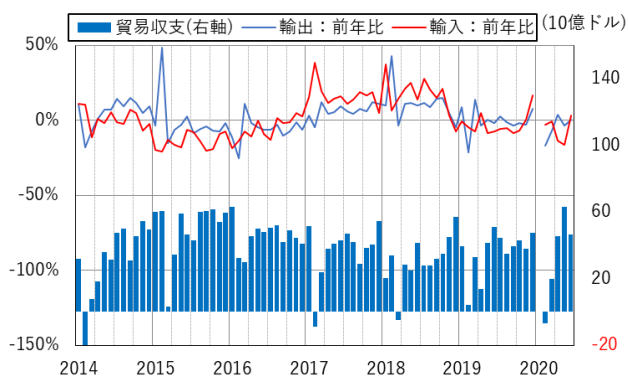


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

6月の貿易収支は464.2億ドルで4カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,135.7億ドルで前年同月比+0.3%と2カ月ぶりの増加。輸入額は1,671.5億ドルで同+3.3%と6カ月ぶりの増加。貿易総額(輸出+輸入)は同+1.6%と6カ月ぶりに拡大した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~20年6月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[地域別貿易状況]

地域別にみると、6月の対日貿易収支は-44.0億ドルで、2カ月ぶりの赤字となった。対日輸出額は108.6億ドルとなり、前年同月比-10.5%と3カ月ぶりの減少。対日輸入額は152.5億ドルとなり、同+8.9%と3カ月ぶりの増加。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同-10.9%と3カ月ぶりの減少。対日輸入額は同+8.4%と3カ月ぶりの増加であった。

対韓貿易収支は-51.3億ドル(前月:-33.5億ドル)の赤字と

なった。対韓輸出額は92.0億ドルで前年同月比-3.9%と2カ月連続の減少。また、対韓輸入額は143.4億ドルとなり、同+9.0%と6カ月ぶりの増加であった。

対ASEAN貿易収支は50.8億ドル(前月:63.3億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は303.2億ドルで同+1.6%と2カ月ぶりの増加。また、対ASEAN輸入額は252.3億ドルとなり、同+16.7%と3カ月ぶりの増加であった。

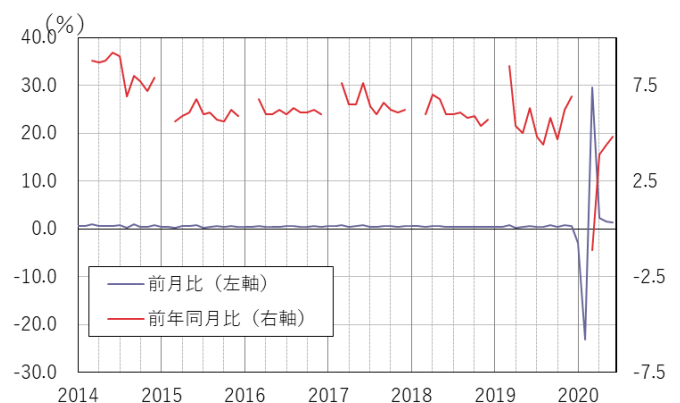
対米貿易収支は294.1億ドル(前月:278.9億ドル)となり、前年同月比-1.7%と3カ月ぶりの減少。対米輸出額は398.3億ドルで同+1.4%と2カ月ぶりの増加。また、対米輸入額は104.2億ドルで、同+11.3%と4カ月ぶりの増加であった。

対EU貿易収支は132.0億ドル(前月:181.8億ドル)の黒字となった。対EU輸出額は338.8億ドルで同-5.0%と6カ月連続の減少。また、対EU輸入額は206.8億ドルとなり、同-7.2%と6カ月連続で減少した。

(3) 工業生産

6月の工業生産は前月比+1.3%上昇し、伸びは前月から0.23ポイント減速した。また、前年同月比+4.8%上昇し、前月から+0.4%ポイントと3カ月連続で加速した。

工業生産指数(2014年1月~20年6月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、自動車製造業(前年同月比+13.4%)、パソコン・通信設備製造業(同+12.6%)、専用設備製造業(同+9.6%)などが高い伸びを示す一方、金属製品製造業(同+2.6%)、食品製造業(同+1.3%)などは比較的低調な伸びに

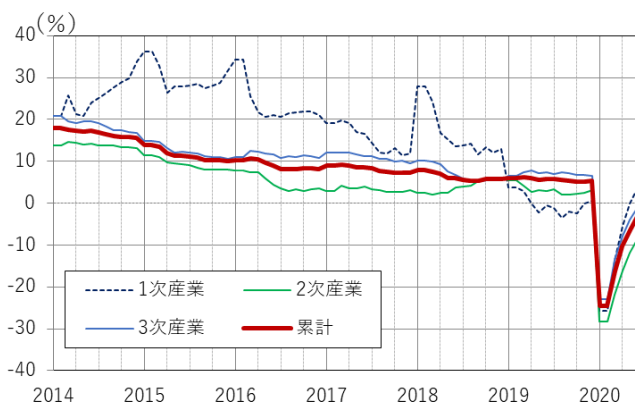
とどまった。また、農業副食品加工業と鉄道・輸送機器製造業は、同-2.4%(2 カ月連続)、同-1.2%(4 カ月ぶり)いずれも減産となった。

(4) 固定資産投資

1-6 月期の累積固定資産投資(名目)は前年比-3.1%となり、1-5 月期(同-6.3%)から減少幅は 3.2%ポイント縮小したが、6 カ月連続のマイナスであった。

産業別にみると、第 1 次産業は前年比+3.8%増加し、伸びは前月(同 0.0%)から 3.8%ポイント加速した。第 2 次産業は同-8.3%と前月(同-11.8%)から 3.5%ポイント加速した。第 3 次産業は同-1.0%で、伸びは前月(同-3.9%)から 2.9%ポイント加速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014 年 1 月~20 年 6 月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

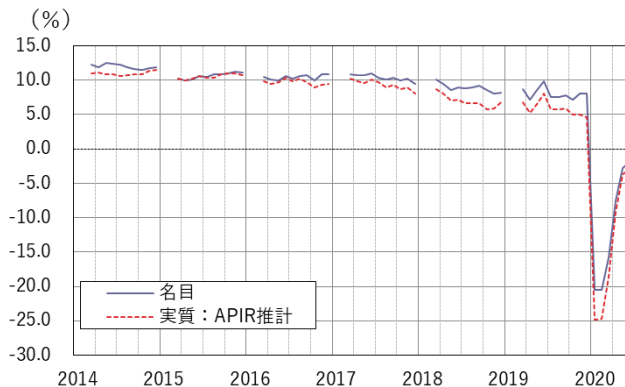
(5) 消費

6 月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比-1.8%と、6 カ月連続の減少だが、下落幅は前月(同-2.8%)から縮小した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、下落幅は同-2.9%と前月(同-3.7%)から縮小した。

都市部の社会消費品小売総額は前年同月比-2.0%と、6 カ月連続で減少しているが、下落幅は前月(同-2.8%)から縮小した。農村部の社会消費品小売総額は同-1.2%と、6 カ月連続の減少だが、下落幅は前月(同-3.2%)から縮小した。

6 月の電子商取引の社会消費品小売総額は 1.13 兆円で、前年同月比+19.0%と 4 カ月連続のプラスとなった。

社会消費品小売総額(2014 年 1 月~20 年 6 月)



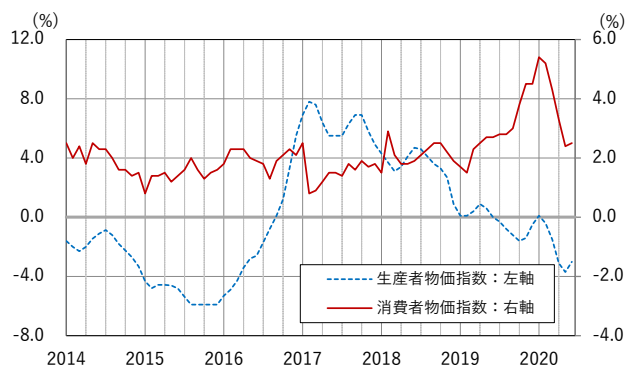
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

6 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.5%で、前月から+0.1%ポイント上昇した。うち、食品価格は同+11.1%上昇し、CPI への寄与度は+2.24%ポイントであった。食料品のうち、肉類価格の大幅上昇が続いている。一方、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は同+0.9%上昇し、伸びは前月(同+1.1%)から幾分減速した。

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-3.0%と 5 カ月連続のマイナス。下落幅は前月から 0.7%ポイント縮小した。うち、生産財(生産資料)価格は同-4.2%下落し、下落幅は前月(同-5.1%)から縮小した。消費財(生活資料)価格は同+0.6%上昇し、前月(同+0.5%)から拡大した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014 年 1 月~20 年 6 月)

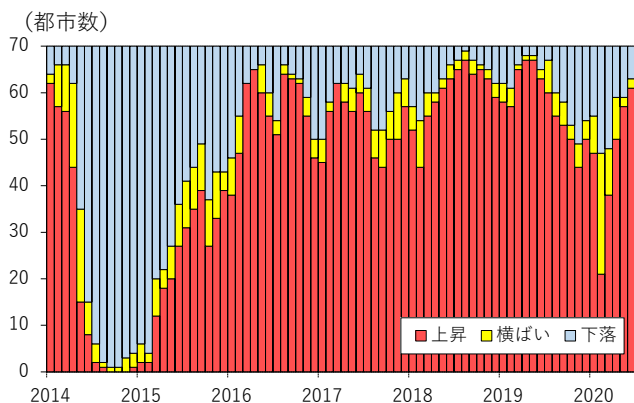


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

6月の不動産市場は、好調が続いている。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は61で前月から4都市増加した(4カ月連続)。一方、下落した都市数は7で前月から4都市減少(2カ月ぶり)。また、横ばいの都市数は2で前月と横ばい。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2020年6月)

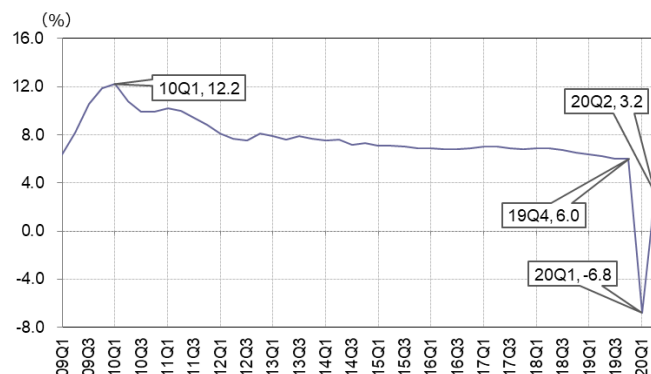


(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

(8) GDP

4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.2%で、1-3月期(同-6.8%)から10.0%ポイント改善した。一方、前期比は+11.5%で、1-3月期(同-10.0%)より21.5%ポイント改善した。

実質GDP成長率の推移(2009年Q1~2020年Q2)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

産業別に見ると、4-6月期の第1次産業の成長率は前年同期比+3.3%、第2次産業は同+4.7%、第3次産業は同+1.9%

となった。伸びは前期から6.5%ポイント、14.3%ポイント、7.1%ポイントと、いずれも2四半期ぶりに回復した。

(9) 今月の中国経済レビュー

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年1-3月期の中国経済は歴史的失速(前年同期比-6.8%)に見舞われた。3月から各省での生産活動の再開により、主要な経済指標は改善した。その結果、4-6月期の実質GDPは同+3.2%と2四半期ぶりのプラス成長となった。

工業生産指数の前年同月比は4月にプラスに転じ、3カ月連続回復しており、企業センチメントは、3月以来4カ月連続で景気分岐点を上回った。6月、世界の多くは経済活動を再開しつつ、経済の底入れが見られている。外需の拡大により、輸出新規受注指数は6月に大幅上昇し、貿易総額は6カ月ぶりに拡大した。

社会消費品小売総額は4カ月連続で回復傾向が見られたものの、6月は未だ前年の水準を下回っており、生産と比べて回復が遅れている。6月1日-18日に行われた「618」セールの影響もあり、幾分消費を下支えた。

他方、中小企業救済と経済安定のため、政府は一連の金融政策を打ち出した。中央銀行は、新型コロナウイルス感染拡大影響に対して3,000億元の特別融資に加え、2.5兆元の金融包摂(Inclusive Financing)を実施した。さらに、企業に対して約3.7兆元の元本償還・利払いを一時的に延期するモラトリアム措置を発動した。このように、6月の貨幣供給(M2)は前年比+11.1%と、4カ月連続の2桁成長を記録した。新型コロナウイルス感染拡大を抑え込む一方で、政府は生産回復促進を中心として政策を打ち出したが、景気回復の持続性については、今後とも動向を注視すべきである。

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	19/7M	19/8M	19/9M	19/10M	19/11M	19/12M	20/1M	20/2M	20/3M	20/4M	20/5M	20/6M
景況感												
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	43.8	45.3	50.4	39.9	40.2	40.2	40.9	25.1	12.7	5.8	17.1	37.0
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	46.3	42.3	37.2	45.1	46.2	45.1	39.9	25.1	18.6	18.6	38.2	43.4
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	41.2	42.8	46.7	36.7	39.4	39.7	41.9	27.4	14.2	7.9	15.5	38.8
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	44.3	39.7	36.9	43.7	45.7	45.5	41.8	24.6	18.8	16.6	36.5	44.0
消費者心理・小売												
[関西]消費者態度指数(原数値)	38.2	36.9	35.7	36.1	38.1	38.4	38.9	37.7	30.3	19.6	23.1	28.5
[関西]「暮らし向き(原数値)	36.4	35.5	33.8	34.3	37.9	38.1	37.3	37.1	29.1	19.9	24.2	31.1
[関西]「収入の増え方(原数値)	39.6	39.6	38.9	38.0	39.4	39.1	39.8	38.7	34.4	23.6	27.2	31.0
[関西]「雇用環境(原数値)	42.0	41.1	41.8	40.6	40.6	40.6	41.5	38.4	27.5	12.9	15.8	21.0
[関西]「耐久消費財の買い時判断(原数値)	34.7	31.3	28.1	31.6	34.6	35.7	36.8	36.5	30.0	22.1	25.2	30.9
[関西]消費者態度指数(季節調整値)	38.1	36.9	35.9	36.2	38.1	38.3	38.6	38.1	30.4	19.6	23.1	28.3
[関西]「暮らし向き(季節調整値)	36.4	35.5	34.1	34.2	37.6	38.0	36.6	37.9	29.5	20.0	24.0	30.8
[関西]「収入の増え方(季節調整値)	39.5	39.2	38.7	38.4	39.4	39.5	39.5	39.2	34.7	23.6	26.8	30.8
[関西]「雇用環境(季節調整値)	42.2	41.1	41.7	40.9	40.6	40.3	41.6	38.7	27.3	12.8	15.9	20.8
[関西]「耐久消費財の買い時判断(季節調整値)	34.6	31.6	28.1	31.6	34.9	35.2	36.3	36.7	29.8	22.3	25.5	30.8
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	37.8	37.1	35.6	36.2	38.7	39.1	39.1	38.3	30.9	21.6	24.0	28.4
[関西]大型小売販売額(10億円)	319.6	307.2	327.2	282.8	310.9	392.1	315.2	270.3	280.9	222.9	241.6	UN
[関西]大型小売販売額(前年同月比、全店)	-3.4	0.8	13.7	-8.9	-3.3	-3.7	-2.1	-4.5	-14.5	-28.7	-23.1	UN
[全国]大型小売販売額(10億円)	1,624.2	1,589.7	1,671.7	1,457.7	1,610.8	2,022.8	1,606.4	1,438.7	1,620.4	1,344.5	1,455.5	UN
[全国]大型小売販売額(前年同月比、全店)	-4.5	0.9	10.4	-8.1	-2.0	-2.9	-1.6	0.3	-8.8	-18.6	-13.4	UN
住宅・建設												
[関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	12,072	10,647	11,571	11,012	10,909	12,406	10,469	11,804	11,852	9,411.0	10,927.4	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比)	9.7	-11.8	8.7	-4.8	-0.9	13.7	-15.6	12.8	0.4	-20.6	16.1	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	75,672	75,672	75,236	74,624	70,649	70,990	67,744	72,615	75,420	66,390	67,267.0	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比)	-1.6	0.0	-0.6	-0.8	-5.3	0.5	-4.6	7.2	3.9	-12.0	1.3	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	81.0	79.8	77.7	74.5	59.5	74.1	68.4	74.9	70.3	78.4	49.8	69.4
[関西]マンション契約率(原数値)	83.1	84.9	75.7	73.8	60.1	71.0	66.8	75.3	69.2	77.9	50.0	70.4
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	63.2	75.0	57.2	47.0	58.2	60.3	66.1	58.3	65.6	79.8	72.3	70.9
[首都圏]マンション契約率(原数値)	67.9	75.4	56.8	42.6	55.2	61.3	63.0	59.3	70.0	78.9	72.3	73.2
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	135.3	106.0	120.0	189.6	133.2	95.5	92.0	74.8	157.9	319.9	120.8	160.4
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	-4.0	11.1	9.8	62.2	40.7	8.6	28.9	-6.4	44.5	45.0	-14.7	9.0
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,609.1	1,149.3	1,275.1	1,348.0	911.0	803.8	641.5	699.4	1,487.0	2,305.4	1,329.1	1,638.6
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	28.5	2.2	4.6	5.1	11.3	-3.6	9.6	4.2	12.9	3.2	-6.4	13.2
[関西]建設工事(総合、10億円)	529.3	533.8	554.2	569.7	582.6	598.3	602.3	596.9	593.6	517.2	493.0	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	8.6	5.0	4.5	5.6	3.8	2.1	2.7	2.4	3.3	3.3	-0.2	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,131.4	4,346.9	4,561.6	4,736.5	4,798.4	4,840.1	4,771.0	4,627.6	4,666.7	3,873.3	3,700.8	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	2.6	3.5	2.5	3.2	3.3	2.6	1.75	-0.3	0.7	-0.2	-2.1	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,495.7	1,644.3	1,835.0	2,005.9	2,086.1	2,136.0	2,135.5	2,055.7	2,134.0	1,492.6	1,388.1	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	4.9	7.8	7.6	10.8	11.4	9.5	8.2	4.4	9.1	7.0	7.6	UN
生産												
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.7	100.3	104.4	98.2	93.8	97.5	100.4	97.5	96.6	87.7	80.7	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	4.7	-4.2	4.1	-5.9	-4.5	4.4	3.0	-2.9	-0.9	-9.2	-8.0	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比)	2.7	-7.2	6.0	-11.2	-11.5	-2.8	-4.4	-1.6	0.9	-12.9	-25.2	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比)	6.6	8.2	3.2	4.8	3.9	3.0	5.7	2.8	3.1	1.9	3.3	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	104.2	100.2	107.2	98.0	93.7	97.6	98.5	98.8	99.0	86.7	78.7	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	6.4	-3.8	7.0	-8.6	-4.4	4.5	0.9	0.3	0.2	-12.4	-9.2	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	105.0	105.7	102.0	103.6	102.9	103.2	104.2	102.8	104.9	103.9	104.3	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	0.0	0.7	-3.5	1.6	-0.7	0.3	1.0	-1.3	2.0	-1.0	0.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	102.7	101.5	103.2	98.6	97.6	98.8	99.8	99.5	95.8	86.4	78.7	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.3	-1.2	1.7	-4.5	-1.0	1.2	1.9	-0.3	-3.7	-9.8	-8.9	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比)	1.9	-4.5	2.2	-7.3	-7.7	-3.4	3.6	-5.4	-6.5	-16.6	-26.8	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比)	2.5	2.6	0.9	2.6	1.6	1.3	3.6	1.6	2.9	2.7	-0.5	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.5	101.2	102.7	98.1	96.4	96.7	97.9	98.9	93.2	84.3	76.8	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	2.7	-1.3	1.5	-4.5	-1.7	0.3	0.9	1.0	-5.8	-9.5	-8.9	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	104.5	104.4	102.9	104.2	103.3	104.2	106.2	104.4	106.4	106.1	103.3	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.2	-0.1	-1.4	1.3	-0.9	0.9	2.1	-1.7	1.9	-0.3	-2.6	UN
労働												
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	0.3	-0.8	-0.0	-0.2	-0.2	-1.0	-0.7	-1.0	-1.3	-3.3	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	0.4	-0.9	-0.0	-0.2	-0.3	-1.2	-0.3	-1.1	-1.3	-3.5	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	-1.0	-0.1	0.5	0.0	0.1	-0.2	1.0	0.7	0.1	-0.7	-2.3	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.4	2.1	2.5	2.6	2.3	2.3	2.6	2.7	3.1	3.2	2.8	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.6	2.2	2.7	2.6	2.1	2.2	2.4	2.7	3.1	3.1	2.9	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.2	2.2	2.4	2.4	2.2	2.2	2.4	2.4	2.5	2.6	2.9	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.50	2.57	2.42	2.53	2.42	2.58	2.16	2.38	2.38	1.95	1.96	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.34	2.45	2.28	2.44	2.32	2.43	2.04	2.22	2.26	1.85	1.88	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.60	1.59	1.59	1.58	1.57	1.59	1.50	1.48	1.42	1.33	1.20	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.59	1.59	1.57	1.57	1.57	1.57	1.49	1.45	1.39	1.32	1.20	UN
国際貿易												
[関西]純輸出(10億円)	68.5	120.3	200.7	190.7	110.7	193.5	-126.1	417.0	245.6	54.7	28.1	102.9
[関西]輸出(10億円)	1,410.2	1,321.5	1,415.2	1,398.4	1,351.8	1,414.4	1,137.7	1,330.0	1,421.9	1,280.1	1,039.2	1,159.5
[関西]輸出(前年同月比)	-1.7	-12.9	27.5	-7.8	-10.2	-4.1	-3.6	0.8	-5.2	-5.5	-16.9	-14.1
[関西]輸入(10億円)	1,341.7	1,201.2	1,214.4	1,207.8	1,241.1	1,220.9	1,263.8	913.1	1,176.3	1,225.3	1,011.1	1,056.6
[関西]輸入(前年同月比)	-0.6	-10.5	30.2	-14.0	-16.5	-5.8	-7.4	-17.5	-4.2	-2.2	-19.7	-2.2

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

Release Calendar for June/July

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
29-Jun 商業動態統計 (5月:速報)	30-Jun 全国鉱工業指数 (5月:速報) 一般職業紹介状況 (5月) 労働力調査 (5月) 建築着工統計調査 (5月) 中国製造業 PMI (6月)	1-Jul 消費動向調査 (6月)	2-Jul	3-Jul
6-Jul 百貨店・スーパー販売 状況 (5月:速報)	7-Jul 毎月勤労統計調査 (5月:速報)	8-Jul 景気ウォッチャー 調査 (6月)	9-Jul 中国 CPI (6月)	10-Jul 近畿地域鉱工業生産 動向 (5月速報) 近畿圏貿易概況 (4月:確報)* 近畿圏貿易概況 (5月:確・速報)*
13-Jul	14-Jul 全国鉱工業指数 (5月:確報) 中国輸出入 (6月:速報)	15-Jul 商業動態統計 (5月:確報) マンション市場動向 (6月)* 公共工事前払金保証 統計 (6月)*	16-Jul 中国工業生産 (6月) 中国消費小売総額 (6月) 中国固定資産投資 (6月) 中国不動産市場 (6月)	17-Jul 建設総合統計 (5月)
20-Jul 全国貿易統計 (6月:速報) 近畿圏貿易概況 (6月:速報) 出入(帰)国者数 (6月)*	21-Jul	22-Jul 毎月勤労統計調査 (5月:確報)	23-Jul 海の日	24-Jul スポーツの日
27-Jul 出入国管理統計 (5月)	28-Jul 近畿地域鉱工業生産 動向 (5月:確報)	29-Jul	30-Jul 全国貿易統計 (5月:確報) 全国貿易統計 (6月:確・速報) 商業動態統計 (6月:速報)	31-Jul 全国鉱工業指数 (6月:速報) 消費動向調査 (7月) 一般職業紹介状況 (6月) 労働力調査 (6月) 建築着工統計調査 (6月)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。